

EAP-FAST 認証を使用する Cisco Secure Services Client

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[設計パラメータ](#)

[データベース](#)

[暗号化](#)

[シングル サインオンとマシンのクレデンシャル](#)

[ネットワーク図](#)

[Access Control Server \(ACS \) の設定](#)

[ACS でアクセス ポイントを AAA クライアント \(NAS \) として追加する](#)

[外部データベースに照会するため ACS を設定する](#)

[ACS で EAP-FAST サポートを有効にする](#)

[Cisco WLAN コントローラ](#)

[ワイヤレス LAN コントローラの設定](#)

[LAP の基本動作およびコントローラへの LAP の登録](#)

[Cisco Secure ACS を介した RADIUS 認証](#)

[WLAN パラメータの設定](#)

[動作の確認](#)

[付録](#)

[EAP-FAST Exchange のスニファ キャプチャ](#)

[WLAN コントローラでのデバッグ](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、EAP-FAST により、ワイヤレス LAN コントローラ、Microsoft Windows 2000(R) ソフトウェア、および Cisco Secure Access Control Server (ACS) 4.0 で Cisco Secure Services Client (CSSC) を設定する方法について説明します。このドキュメントでは EAP-FAST のアーキテクチャを紹介し、展開と設定の例を示します。CSSC はクライアント ソフトウェア コンポーネントで、ユーザをネットワークに対して認証し、適切なアクセス権を割り当てるために、ユーザのクレデンシャルのインフラストラクチャへのコミュニケーションを実現します

。

このドキュメントで概要が示されている CSSC ソリューションには、次のような利点があります

。

- Extensible Authentication Protocol (EAP) を使用した、WLAN/LAN へのアクセス権限に先行する各ユーザ (またはデバイス) の認証
- サーバ、Authenticator、およびクライアント コンポーネントを使用したエンドツーエンドの WLAN セキュリティ ソリューション
- 有線と無線の認証に共通のソリューション
- 認証プロセスで取得される動的なユーザごとの暗号化キー
- Public Key Infrastructure (PKI; 公開キー インフラストラクチャ) または証明書が不要 (証明書検証はオプション)
- アクセス ポリシー割り当て/NAC 対応の EAP フレームワーク

注：セキュリティなワイヤレスの[導入に関する情報](#)は、『Cisco SAFEワイヤレスのブループリント』を参照してください。

802.1x 認証フレームワークは、802.11 ワイヤレス LAN ネットワークにおけるレイヤ 2 ベースの認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) 機能を有効にするために、802.11i (無線 LAN のセキュリティ) 標準の一部として組み込まれています。今日では、有線と無線両方のネットワークにおける展開で使用できる EAP プロトコルがいくつか存在します。一般的に展開される EAP プロトコルには、LEAP、PEAP、および EAP-TLS があります。これらのプロトコルに加えて、Cisco では、有線と無線両方の LAN ネットワークでの配備に使用できる標準規格ベースの EAP プロトコルとして、EAP Flexible Authentication through Secured Tunnel (EAP-FAST) プロトコルを定義および実装しています。EAP-FAST プロトコルの仕様は、IETF の Web サイトで一般に公開されています。

その他の EAP プロトコルと同じように、EAP-FAST は、TLS トンネル内部での EAP トランザクションを暗号化するクライアント/サーバ型のセキュリティ アーキテクチャです。この点では PEAP や EAP-TTLS に似ていますが、(サーバ X.509 証明書を使用して認証セッションを保護する) PEAP/EAP-TTLS と対比すると、EAP-FAST トンネル確立は各ユーザに固有の強力な共有秘密キーに基づくという点において、EAP-FAST は異なります。これらの共有秘密キーは Protected Access Credential (PAC) と呼ばれ、クライアント デバイスに自動 (Automatic または In-band Provisioning) または手動 (Manual または Out-of-band Provisioning) で配布できます。共有秘密に基づくハンドシェイクは PKI インフラストラクチャに基づくハンドシェイクよりも効率的なため、保護された認証交換を実現するプロトコルの中では、EAP-FAST が最速でプロセッサの負荷が少ない EAP タイプになります。さらに EAP-FAST は、ワイヤレス LAN クライアント上または RADIUS インフラストラクチャ上で証明書を必要とせず、組み込み型のプロビジョニング メカニズムを備えているため、展開を簡単にしています。

次に、EAP-FAST プロトコルの主要な機能の一部を示します。

- Windows のユーザ名/パスワードを使用した Single Sign-On (SSO; シングル サインオン)
- ログイン スクリプト実行のサポート
- サードパーティ製サブリカントを必要としない Wi-Fi Protected Access (WPA) のサポート (Windows 2000 および XP のみ)
- PKI インフラストラクチャを必要としない簡単な展開
- Windows パスワード エージング (つまり、サーバベースのパスワード期限切れのサポート)
- 適切なクライアント ソフトウェアを使用した Network Admission Control 用の Cisco Trust Agent との統合

前提条件

要件

このドキュメントではテストを行うための特定の設定のみがカバーされているため、インストールを実行するユーザには基本的な Windows 2003 のインストールと Cisco WLC のインストールの知識があることが前提となっています。

Cisco 4400 シリーズ コントローラの初期インストールと設定については、『[クイックスタートガイド: Cisco 4400 シリーズ ワイヤレス LAN コントローラ](#)』Cisco 2000 シリーズ コントローラの初期インストールと設定については、『[クイックスタートガイド: Cisco 2000 シリーズ Wireless LAN Controller](#)』。

作業を始める前に、最新のサービス パック ソフトウェアが含まれる Microsoft Windows Server 2000 をインストールします。コントローラと Lightweight Access Point (LAP; Lightweight アクセスポイント) をインストールし、最新のソフトウェア更新プログラムが設定されていることを確認します。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- 4.0.155.5 が稼働する Cisco 2006 または 4400 シリーズ コントローラ
- Cisco 1242 LWAPP AP
- Active Directory を搭載した Windows 2000
- Cisco Catalyst 3750G スイッチ
- CB21AG アダプタ カードと Cisco Secure Services Client バージョン 4.05 を伴う Windows XP

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

設計パラメータ

データベース

WLAN ネットワークを展開して、認証プロトコルを決定する場合、通常はユーザ/マシンの認証用に現在のデータベースを使用するのが望まれます。使用できる一般的なデータベースは、Windows Active Directory、LDAP、または One-Time Password (OTP; ワンタイム パスワード) データベース (つまり RSA や SecureID) です。これらすべてのデータベースが EAP-FAST プロトコルと互換性がありますが、展開を計画する際には、考慮する必要がある互換性の要件がいくつか存在します。クライアントへの PAC ファイルの最初の展開は、匿名自動プロビジョニング、(現行のクライアント X.509 証明書を介した) 認証済みプロビジョニング、または手動プロビジョニングで実行されます。このドキュメントの目的に合わせて、匿名自動プロビジョニングと手動プロビジョニングを検討します。

自動 PAC プロビジョニングでは、Authenticated Diffie-Hellman Key Agreement Protocol (ADHP) を使用してセキュアなトンネルが確立されます。セキュアなトンネルは、匿名で、またはサーバ認証メカニズムを介して確立できます。確立されたトンネル接続内では、クライアントの認証に MS-CHAPv2 が使用され、認証が成功するとクライアントに PAC ファイルが配布されます。PAC が正しくプロビジョニングされた後、セキュアなネットワーク アクセスを実現するために、PAC ファイルを使用して新しい EAP-FAST 認証セッションを開始できます。

自動プロビジョニング メカニズムは MSCHAPv2 に依存していることから、ユーザの認証に使用されるデータベースは使用されるデータベースのパスワード形式と互換性がある必要があるため、自動 PAC プロビジョニングは、使用されるデータベースと関連することになります。EAP-FAST と、MSCHAPv2 形式をサポートしないデータベース (OTP、Novell、LDAP など) を併用する場合、ユーザ PAC ファイルを展開するために別のメカニズム (つまり手動プロビジョニングや認証済みプロビジョニング) を採用する必要があります。このドキュメントでは、Windows のユーザ データベースを使用した自動プロビジョニングの例を示します。

暗号化

EAP-FAST 認証は、特定の WLAN 暗号化タイプの使用を必要としません。使用する WLAN 暗号化タイプは、クライアントの NIC カードの機能によって決まります。特定の展開における NIC カードの機能に応じて、WPA2 (AES-CCM) または WPA (TKIP) の暗号化を採用することをお勧めします。Cisco WLAN ソリューションでは、共通の SSID 上に WPA2 クライアント デバイスと WPA クライアント デバイスの両方が共存できるように注意してください。

クライアント デバイスで WPA2 や WPA がサポートされていない場合、ダイナミックな WEP キーを使用した 802.1X 認証を展開できますが、WEP キーに対する有名な悪用があるため、この WLAN 暗号化メカニズムはお勧めできません。WEP 専用クライアントサポートする必要がある場合、クライアントが短い間隔で新しい WEP キーを取得する必要があるセッションタイムアウト間隔を採用することをお勧めします。一般的な WLAN データ レートに対しては 30 分が推奨されるセッション間隔です。

シングル サインオンとマシンのクレデンシャル

シングル サインオンとは、認証のためのクレデンシャルの 1 回のユーザ サインオンまたは入力が、複数のアプリケーションまたは複数のデバイスにアクセスするために使用できることを指しています。このドキュメントの目的に合わせると、シングル サインオンとは、WLAN に対する認証のために PC へのログオンに使用されるクレデンシャルを使用することを指します。

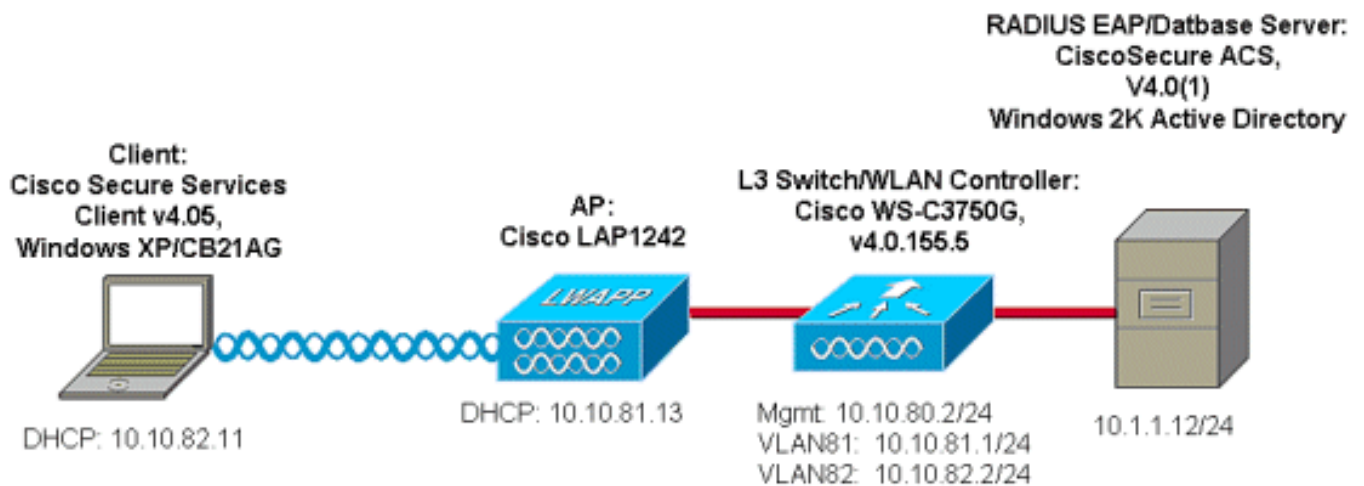
Cisco Secure Services Client を使用すると、あるユーザのログオン クレデンシャルを使用して、WLAN ネットワークに対して認証することも可能です。PC へのユーザ ログオンの前に PC をネットワークに対して認証することが望ましい場合、保存されたユーザ クレデンシャルか、マシンプロファイルと結び付けられたクレデンシャルのいずれかを使用する必要があります。ユーザのログオン時ではなく、PC の起動時にログオン スクリプトを実行するかドライブをマッピングすることが望ましいケースでは、これらの方式のどちらも有用です。

ネットワーク図

このドキュメントでは、次のネットワーク ダイアグラムを使用します。このネットワークでは、4 つのサブネットが使用されます。以下に示すデバイスを異なるネットワークにセグメント化する必要はありませんが、このようにすると実際のネットワークとの統合に関して最高の柔軟性が利用可能になります。Catalyst 3750G Integrated Wireless LAN Controller では、通常のシャーシ上で Power Over Ethernet (POE) スイッチポート、L3 スイッチング、および WLAN コントローラ機能が実現されます。

1. ネットワーク 10.1.1.0 は、ACS が存在するサーバ ネットワークです。
2. ネットワーク 10.10.80.0 は、WLAN コントローラにより使用される管理ネットワークです。
。
3. ネットワーク 10.10.81.0 は、AP が存在するネットワークです。

4. ネットワーク 10.10.82.0 は、WLAN クライアント用に使用されます。



Access Control Server (ACS) の設定

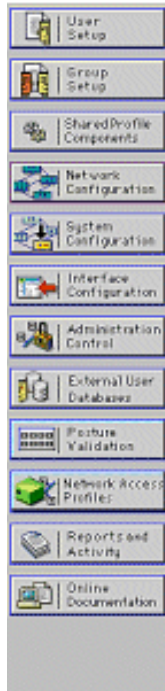
このセクションでは、このドキュメントで説明する機能を設定するために必要な情報を提供しています。

注：このドキュメントで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) を使用してください。

ACS でアクセス ポイントを AAA クライアント (NAS) として追加する

このセクションでは、外部データベースとして、Windows Active Directory によるインバンド PAC プロビジョニングを使用して EAP-FAST 用に ACS を設定する方法について説明します。

1. [ACS] > [Network Configuration] にログオンし、[Add Entry] をクリックします。
2. WLAN コントローラ名、IP アドレス、共有秘密キーを入力し、Authenticate Using の下で RADIUS (Cisco Airespace) を選択します (これには RADIUS IETF 属性も含まれます)。注： Network Device Groups (NDG) が有効である場合、まず適切な NDG を選択してからそれに WLAN コントローラを追加します。NDG の詳細については、『ACS 設定ガイド』を参照してください。
3. [Submit + Restart] をクリックします。



AAA Client Setup For ws-3750

AAA Client IP Address	<input type="text" value="10.10.80.3"/>
Key	<input type="text" value="cisco123"/>
Authenticate Using	<input type="text" value="RADIUS (Cisco Airespace)"/>
<input type="checkbox"/> Single Connect TACACS+ AAA Client (Record stop in accounting on failure).	
<input type="checkbox"/> Log Update/Watchdog Packets from this AAA Client	
<input type="checkbox"/> Log RADIUS Tunneling Packets from this AAA Client	
<input type="checkbox"/> Replace RADIUS Port info with Username from this AAA Client	

[Back to Help](#)

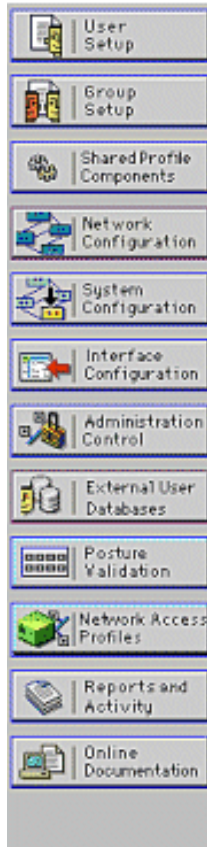
[外部データベースに照会するため ACS を設定する](#)

このセクションでは、外部データベースを照会するために ACS を設定する方法について説明します。

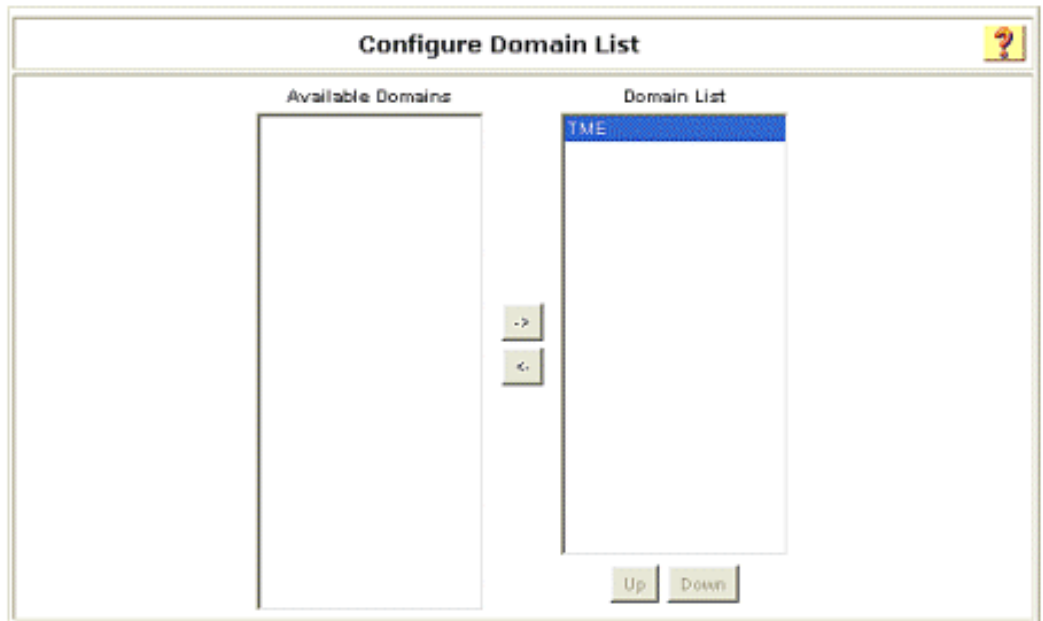
1. [External User Database] > [Database Configuration] > [Windows Database] > [Configure] をクリックします。
2. Configure Domain List の下で、Domains を、Available Domains から Domain List へ移動させます。注：ACSアプリケーションが認証のためにこれらのドメインを検出して使用するためには、ACSを実行するサーバがこれらのドメインを認識している必要があります。



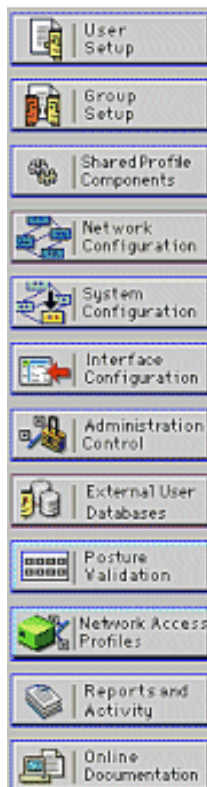
External User Databases



If the unknown user policy contains additional external databases and the Windows database is not the last database on the Selected Databases list, you may enable this option.



3. Windows EAP Settings の下で、PEAP または EAP-FAST セッション内部でのパスワード変更を許可するオプションを設定します。EAP-FAST と Windows パスワードのエイジングの詳細については、『[Cisco Secure ACS 4.1 の設定ガイド](#)』を参照してください。
4. [Submit] をクリックします。注：Windows User Database ConfigurationでEAP-FASTのダイヤルイン許可機能を有効にして、Windows外部データベースがアクセス許可を制御できるようにすることもできます。Windows database configuration ページのパスワード変更用の MS-CHAP Settings は、非 EAP MS-CHAP 認証にのみ適用可能です。EAP-FAST と組み合わせたパスワード変更を有効にするには、Windows EAP Settings の下でパスワード変更を有効にする必要があります。



Windows EAP Settings ?

Enable password change inside PEAP or EAP-FAST.
 EAP-TLS Strip Domain Name.

Machine Authentication.

Enable PEAP machine authentication.
 Enable EAP-TLS machine authentication.
 EAP-TLS and PEAP machine authentication name prefix:

Enable machine access restrictions.
 Aging time (hours):
 Group map for successful user authentication without machine authentication:

User Groups that are exempt from passing machine authentication:

Available User Groups		Selected User Groups
Default Group	->	
Group 1		
Group 2		
Group 3		
Group 4		
Group 5		
Group 6		
Group 7		
Group 8		

These settings can be used to enable or disable specific Windows EAP functionality

5. [External User Database] > [Unknown User Policy]の順にクリックし、[Check the following external user databases]オプションボタンを選択します。
6. Windows データベースを、External Databases から Selected Databases へ移動させます。
7. [Submit] をクリックします。注：これ以降、ACSはWindows DBをチェックします。ユーザが ACS ローカル データベース内に見つからない場合、ユーザは ACS のデフォルトグループ内に配置されます。データベース グループ マッピングの詳細については、ACS のドキュメントを参照してください。注：ACSがMicrosoft Active Directoryデータベースに照会してユーザクレデンシャルを確認するため、Windowsで追加のアクセス権設定を設定する必要があります。詳細は、『[Cisco Secure ACS for Windows Server のインストールガイド](#)』を参照してください。

ACS で EAP-FAST サポートを有効にする

このセクションでは、ACS で EAP-FAST サポートを有効にする方法について説明します。

1. [System Configuration] > [Global Authentication Setup] > [EAP-FAST Configuration]に移動します。
2. Allow EAP-FAST を選択します。
3. 次の推奨事項を設定します。マスターキーTTL/リタイアマスターキーTTL/PAC TTL。これらの設定は、Cisco Secure ACS のデフォルトでは次のように設定されています。Master Key TTL : 1 か月リタイアキーTTL:3カ月PAC TTL:1週間
4. Authority ID Info フィールドに入力します。このテキストは、PAC Authority にコントローラが選択されている場合に、一部の EAP-FAST クライアント ソフトウェア上で表示されます。注 : Cisco Secure Services Clientでは、PAC認証局に対してこの説明テキストを使用しません。
5. Allow in-band PAC provisioning フィールドを選択します。このフィールドにより、適切に有効にされた EAP-FAST クライアント用の自動 PAC プロビジョニングが有効になります。この例では、自動プロビジョニングが採用されています。
6. [Allowed inner methods]を選択します。EAP-GTCおよびEAP-MSCHAP2。これにより、EAP-FAST v1クライアントとEAP-FAST v1aクライアントの両方の動作が許可されます。Cisco Secure Services Client では EAP-FAST v1a をサポートしています)。EAP-FAST v1クライアントをサポートする必要がある場合は、内部方式として EAP-MSCHAPv2 のみを有

効にする必要があります。

7. EAP-FAST Master Server チェックボックスを選択し、この EAP-FAST サーバをマスターとして有効にします。これにより、ネットワーク内の各 ACS の一意のキーのプロビジョンを避けるために、その他の ACS サーバがこのサーバをマスター PAC Authority として利用できるようになります。詳細は、『ACS 設定ガイド』を参照してください。
8. [Submit + Restart] をクリックします。

The screenshot displays the Cisco System Configuration interface for EAP-FAST. On the left is a navigation menu with options like User Setup, Group Setup, Network Configuration, System Configuration, Interface Configuration, Administration Control, External User Databases, Posture Validation, Network Access Profiles, Reports and Activity, and Online Documentation. The main content area is titled 'EAP-FAST Configuration' and contains the following settings:

- EAP-FAST Settings:**
 - Allow EAP-FAST
 - Active master key TTL: 1 months
 - Retired master key TTL: 3 months
 - Tunnel PAC TTL: 1 weeks
 - Client initial message: TME
 - Authority ID Info: TME
 - Allow anonymous in-band PAC provisioning
 - Allow authenticated in-band PAC provisioning
 - Accept client on authenticated provisioning
 - Require client certificate for provisioning
 - Allow Machine Authentication
 - Machine PAC TTL: 1 weeks
 - Allow Stateless session resume
 - Authorization PAC TTL: 1 hours
 - Allowed inner methods:
 - EAP-GTC
 - EAP-MSCHAPv2
 - EAP-TLS
 - Select one or more of the following EAP-TLS comparison methods:
 - Certificate SAN comparison
 - Certificate CN comparison
 - Certificate Binary comparison
 - EAP-TLS session timeout (minutes): 120
 - EAP-FAST master server
 - Actual EAP-FAST server status: Master

[Cisco WLAN コントローラ](#)

展開ガイドとしてのこのドキュメントの目的に合わせて、CSSC テスト用の WLAN インフラストラクチャを提供するために、Cisco WS3750G Integrated Wireless LAN Controller (WLC) が、Cisco AP1240 Lightweight AP (LAP) とともに使用されます。この設定は任意の Cisco WLAN コントローラに適用できます。採用されているソフトウェアのバージョンは 4.0.155.5 です。

ワイヤレス LAN コントローラの設定

LAP の基本動作およびコントローラへの LAP の登録

WLC を基本動作用に設定するには、Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) 上でスタートアップ コンフィギュレーション ウィザードを使用します。または、WLC を設定するために GUI を使用することもできます。このドキュメントでは、CLI 上でスタートアップ コンフィギュレーション ウィザードを使用した、WLC 上の設定について説明します。

WLC が初めて起動すると、スタートアップ コンフィギュレーション ウィザードに入ります。基本設定を設定するには、コンフィギュレーション ウィザードを使用します。このウィザードには CLI または GUI からアクセスできます。次の出力は、CLI 上でのスタートアップ コンフィギュレーション ウィザードの例を示します。

```
Welcome to the Cisco Wizard Configuration Tool
Use the '-' character to backup
System Name [Cisco_33:84:a0]: ws-3750
Enter Administrative User Name (24 characters max): admin
Enter Administrative Password (24 characters max): *****
Management Interface IP Address: 10.10.80.3
Management Interface Netmask: 255.255.255.0
Management Interface Default Router: 10.10.80.2
Management Interface VLAN Identifier (0 = untagged):
Management Interface DHCP Server IP Address: 10.10.80.2
AP Manager Interface IP Address: 10.10.80.4
AP-Manager is on Management subnet, using same values
AP Manager Interface DHCP Server (172.16.1.1):
Virtual Gateway IP Address: 1.1.1.1
Mobility/RF Group Name: Security
Network Name (SSID): Enterprise
Allow Static IP Addresses [YES][no]: yes
Configure a RADIUS Server now? [YES][no]: no
Warning! The default WLAN security policy requires a RADIUS server.
Please see documentation for more details.
Enter Country Code (enter 'help' for a list of countries) [US]:
Enable 802.11b Network [YES][no]: yes
Enable 802.11a Network [YES][no]: yes
Enable 802.11g Network [YES][no]: yes
Enable Auto-RF [YES][no]: yes

Configuration saved!
Resetting system with new configuration.
```

これらのパラメータにより、WLC が基本動作用に設定されます。この設定例では、WLC は管理 インターフェイス IP アドレスとして 10.10.80.3 を使用し、AP マネージャ インターフェイス IP アドレスとして 10.10.80.4 を使用しています。

その他の機能を WLC 上で設定する前に、WLC で LAP を登録する必要があります。このドキュメントでは、LAP が WLC に登録されていることが前提となっています。Lightweight AP の登録がどのように WLC で行われるかの詳細については、『[Lightweight アクセスポイントのための WLAN コントローラのフェールオーバーの設定例](#)』の「[Lightweight AP を WLC に登録する](#)」のセクションを参照してください。この設定例では、AP1240 は WLAN コントローラ (10.10.80.0/24) からは独立したサブネット (10.10.81.0/24) に展開され、コントローラ検出を行うため DHCP オプション 43 が使用されています。

Cisco Secure ACS を介した RADIUS 認証

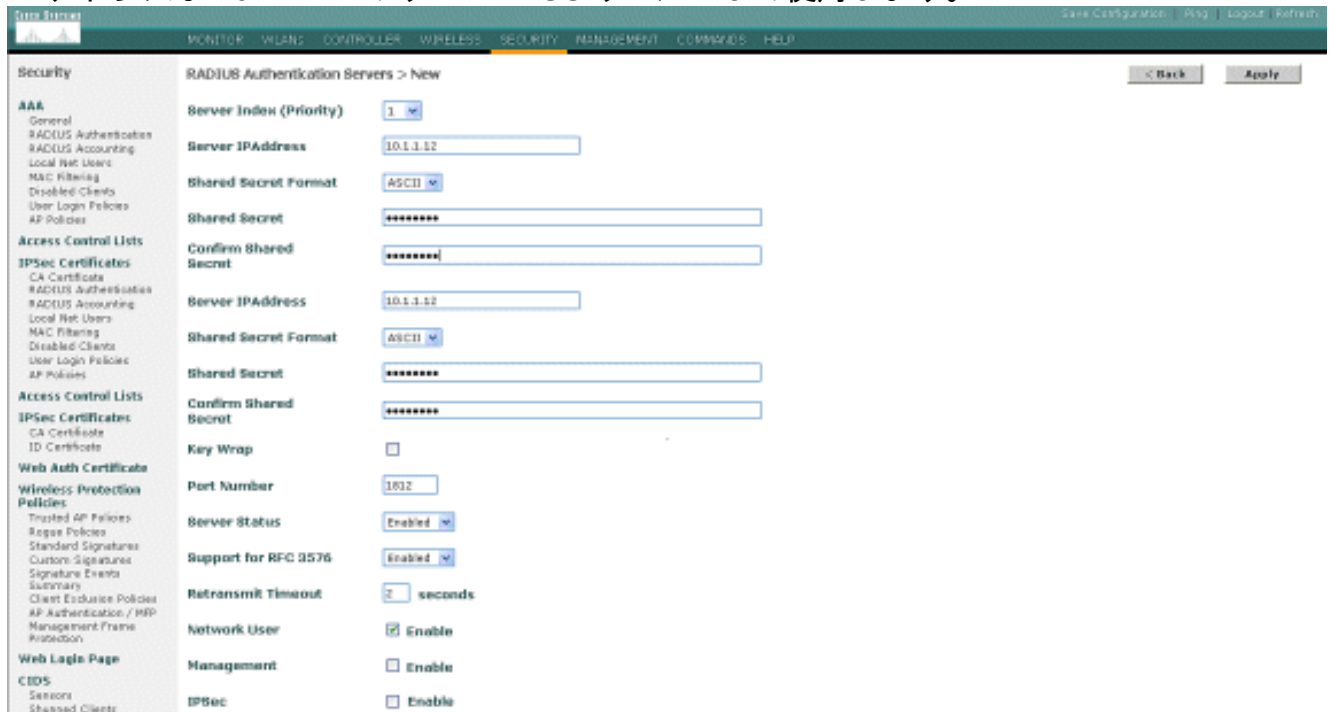
WLC は、Cisco Secure ACS サーバへユーザのクレデンシャルを転送するように設定する必要があります。そうすると、ACS サーバは (設定済みの Windows データベースを介して) ユーザのクレデンシャルを検証し、ワイヤレス クライアントにアクセス権を提供します。

ACS サーバへのコミュニケーション用に WLC を設定するには、次の手順を実行します。

1. コントローラの GUI から Security と RADIUS Authentication をクリックして、RADIUS Authentication Servers ページを表示します。続いて New をクリックして ACS サーバを定義します。



2. [RADIUS Authentication Servers] > [New] ページで ACS サーバのパラメータを定義します。これらのパラメータには、ACS IP Address、Shared Secret、Port Number、および Server Status が含まれます。注：ポート番号 1645 または 1812 は、RADIUS 認証用の ACS と互換性があります。Network User チェックボックスと Management チェックボックスでは、ネットワーク ユーザ (WLAN クライアントなど) と管理 (つまり管理ユーザ) に RADIUS ベースの認証を適用することを指定します。設定例では、次のように、Cisco Secure ACS を IP アドレスが 10.1.1.12 である RADIUS サーバとして使用します。



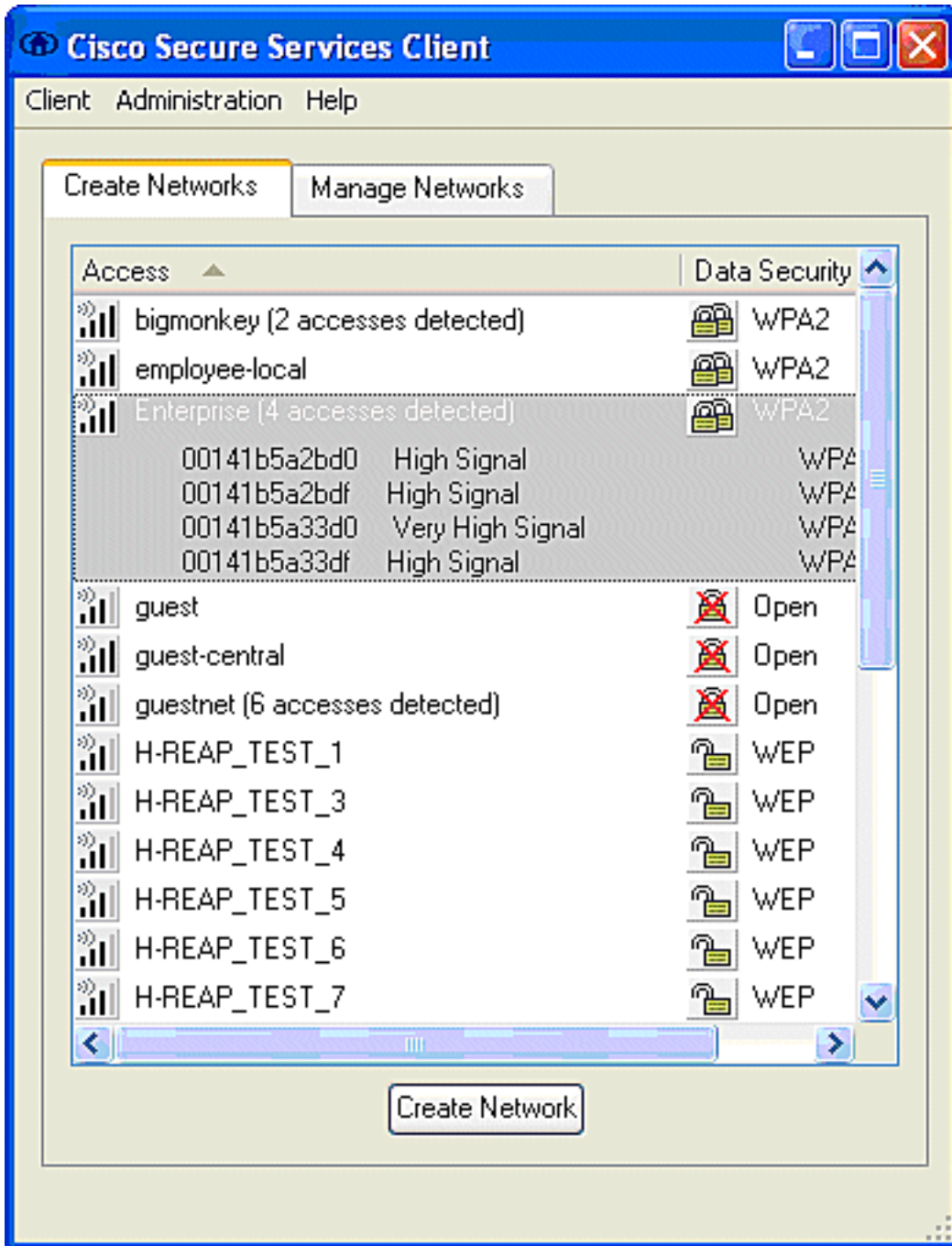
WLAN パラメータの設定

このセクションでは、Cisco Secure Services Client の設定について説明します。このドキュメントの例では、CSSC v4.0.5.4783 が Cisco CB21AG クライアント アダプタとともに使用されています。CSSC ソフトウェアをインストールする前に、CB21AG 用のドライバのみがインストールされ、Aironet Desktop Utility (ADU) がインストールされていないことを確認してください。

このソフトウェアがインストールされ、サービスとして動作するようになると、そのサービスは使用可能なネットワークをスキャンし、使用可能なネットワークを表示します。

注：CSSCはWindows Zero Configを無効にします。

注：ブロードキャストに対して有効になっているSSIDだけが表示されます。



注：WLANコントローラは、デフォルトでSSIDをブロードキャストするため、スキャンされたSSIDの[Create Networks]リストに表示されます。Network Profileを作成するには、リスト (Enterprise) のSSIDおよび Create Network オプション ボタンをクリックするだけで済みます。

WLANインフラストラクチャでブロードキャストSSIDが無効に設定されている場合は、SSIDを手動で追加する必要があります。[Access Devices]の下[Add]オプションボタンをクリックし、適切なSSID (Enterpriseなど) を手動で入力します。クライアントのアクティブプローブ動作を設定します。つまり、クライアントは設定済みのSSIDをアクティブにプローブします。[Add Access Device] ウィンドウで [SSID] を入力したら、[Actively search for this access device] を指定します。

。

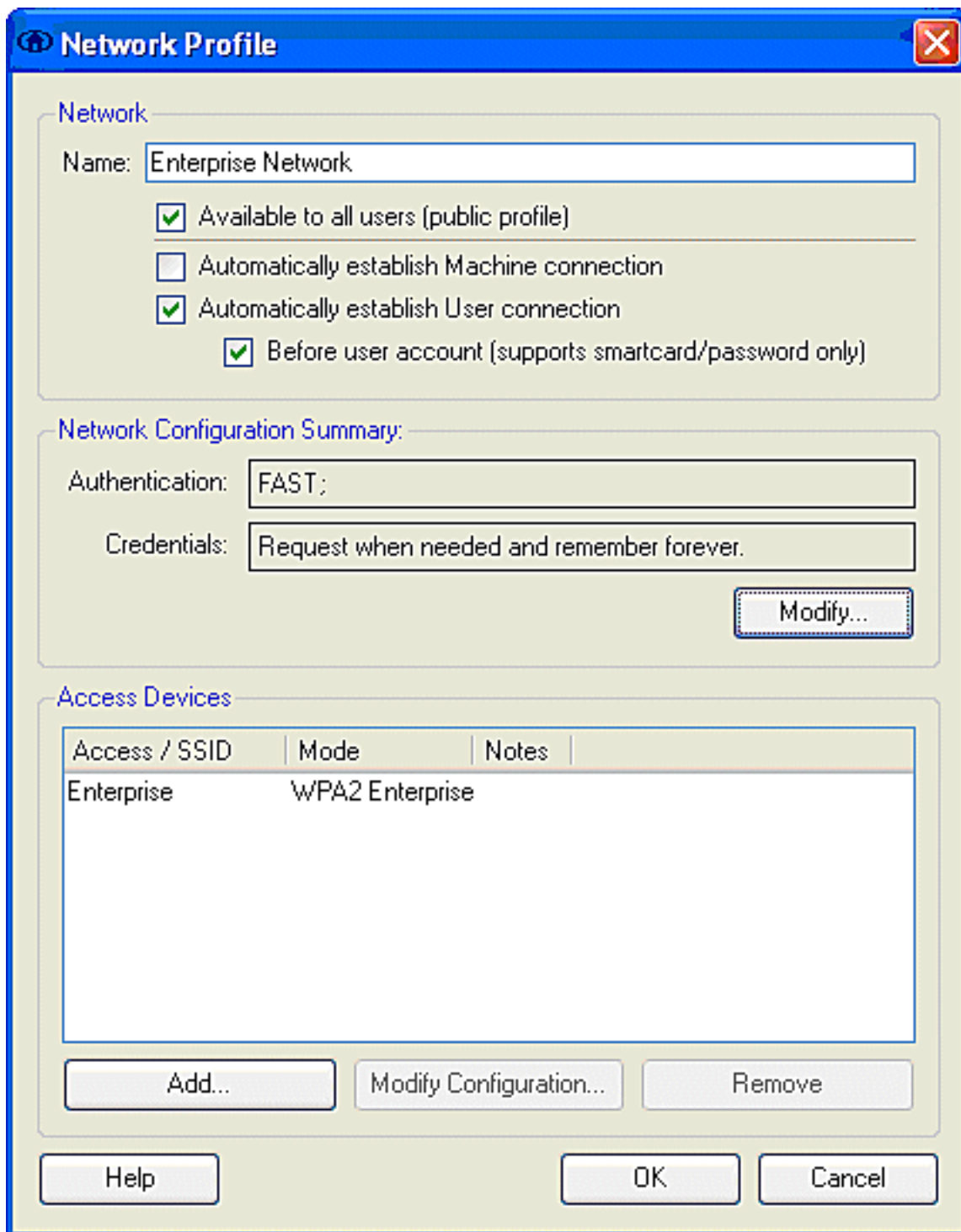
注：EAP認証設定がプロファイルに対して最初に設定されていない場合、ポート設定ではエンタープライズモード(802.1X)は許可されません。

Create Network オプション ボタンを押すと Network Profile ウィンドウが表示され、このウィンドウでは選択済み (または設定済み) の SSID を認証メカニズムと関連付けることができます。プロファイルに説明的な名前を割り当てます。

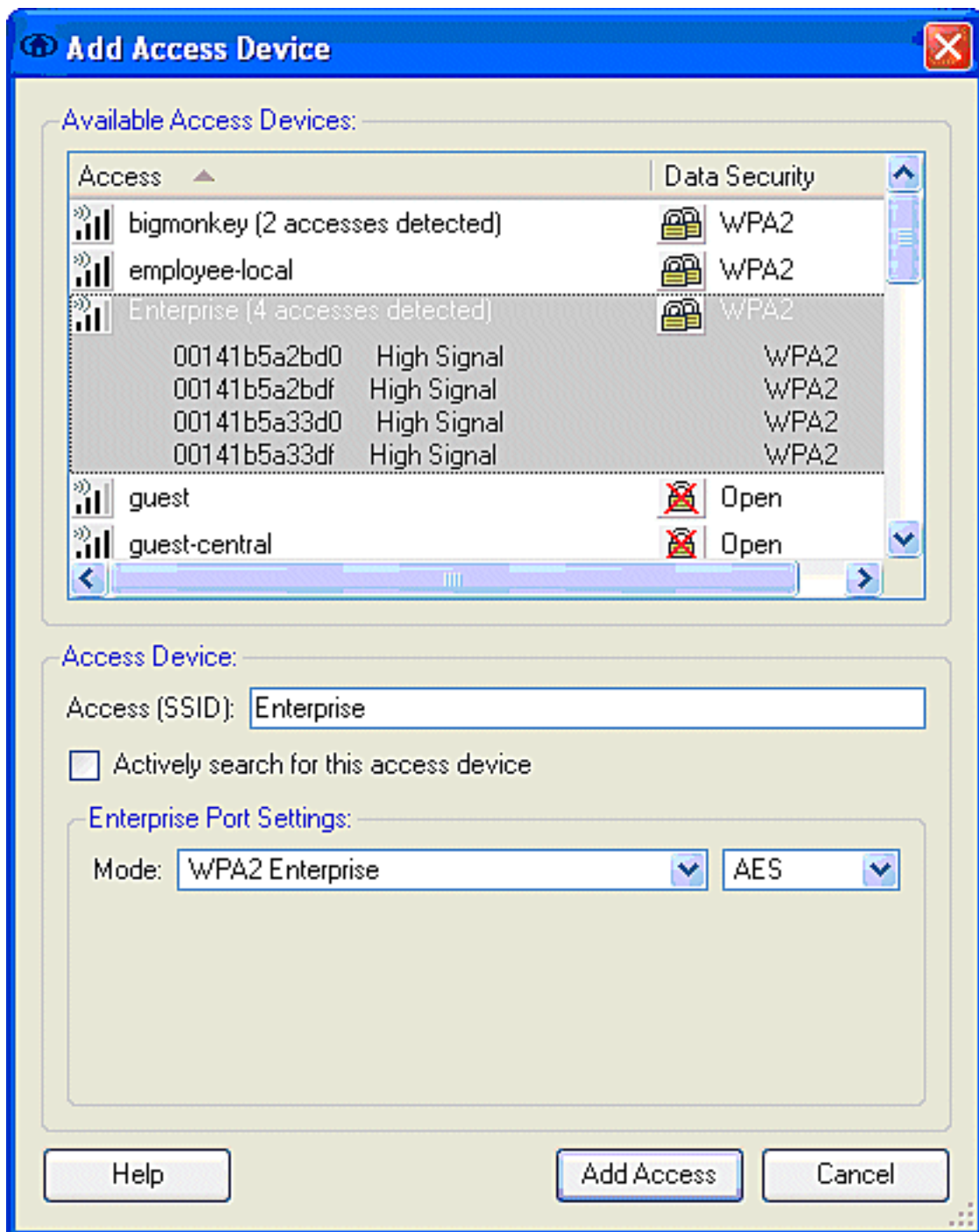
注：この認証プロファイルでは、複数のWLANセキュリティタイプまたはSSIDを関連付けることができます。

RF カバー範囲内にある際にクライアントを自動的にネットワークに接続させるには、Automatically establish User connection を選択します。このプロファイルをマシン上の他のユーザーアカウントとともに使用することが望ましくない場合、Available to all users のチェックを外します。Automatically establish が選択されていない場合、ユーザが CSSC ウィンドウを開き、Connect オプション ボタンで WLAN 接続を手動で開始する必要があります。

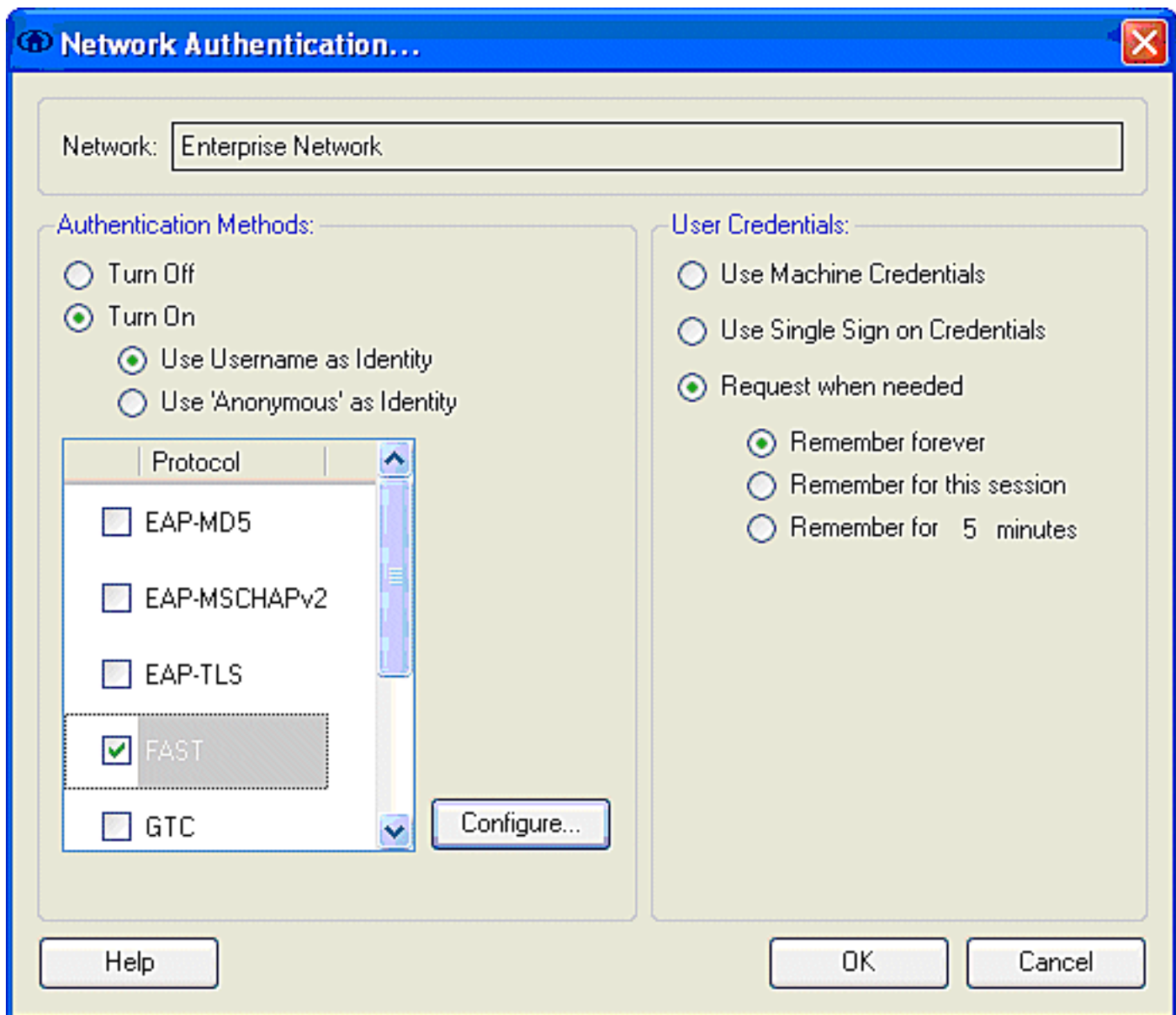
ユーザ ログオンの前に WLAN 接続を開始することが望ましい場合は、Before user account を選択します。これにより、保存されたユーザのクレデンシャルを使用したシングル サインオン動作が可能になります (パスワードまたは証明書/EAP-FAST 内で TLS を使用する場合はスマートカード)。



注 : Cisco Aironet 350シリーズクライアントアダプタを使用したWPA/TKIP操作では、WPAハンドシェイク検証を無効にする必要があります。これは、現在、CSSCクライアントと350ドライバの間にWPAハンドシェイク検証に関する非互換性があるためです。[Client] > [Advanced Settings] > [WPA/WPA2 Handshake Validation]で無効になります。無効にされたハンドシェイク検証では依然として WPA に固有のセキュリティ機能 (TKIP のパケットごとのキー生成および Message Integrity Check) は許可されますが、最初の WPA キー認証が無効にされます。



Network Configuration Summary の下で Modify をクリックして EAP/クレデンシャルの設定を設定します。Turn On 認証を指定し、Protocol の下で FAST を選択し、(最初の EAP 要求でユーザ名を使用しないために) 'Anonymous' as Identity を選択します。Use Username as Identity を外部 EAP 識別情報として使用することは可能ですが、お客様の多くでは最初の暗号化されていない EAP 要求でユーザ ID を提示することは希望されません。ネットワーク認証用のログオンクレデンシャルを使用するには、[Use Single Sign on Credentials] を指定します。Configure をクリックして EAP-FAST のパラメータを設定します。



FAST 設定の下では、EAP-FAST セッションの確立の前に EAP-FAST サーバ (ACS) 証明書をクライアントが検証できるようにする Validate Server Certificate を指定できます。これにより、未知のまたは不正な EAP-FAST サーバへの接続や、信頼できないソースへ不用意に認証のためのクレデンシャルを発行してしまうことから、クライアント デバイスを保護できます。これには、ACS サーバに証明書がインストールされている必要はなく、またクライアントには対応する Root Certificate Authority 証明書がインストールされている必要もありません。この例では、サーバ証明書の検証は有効ではありません。

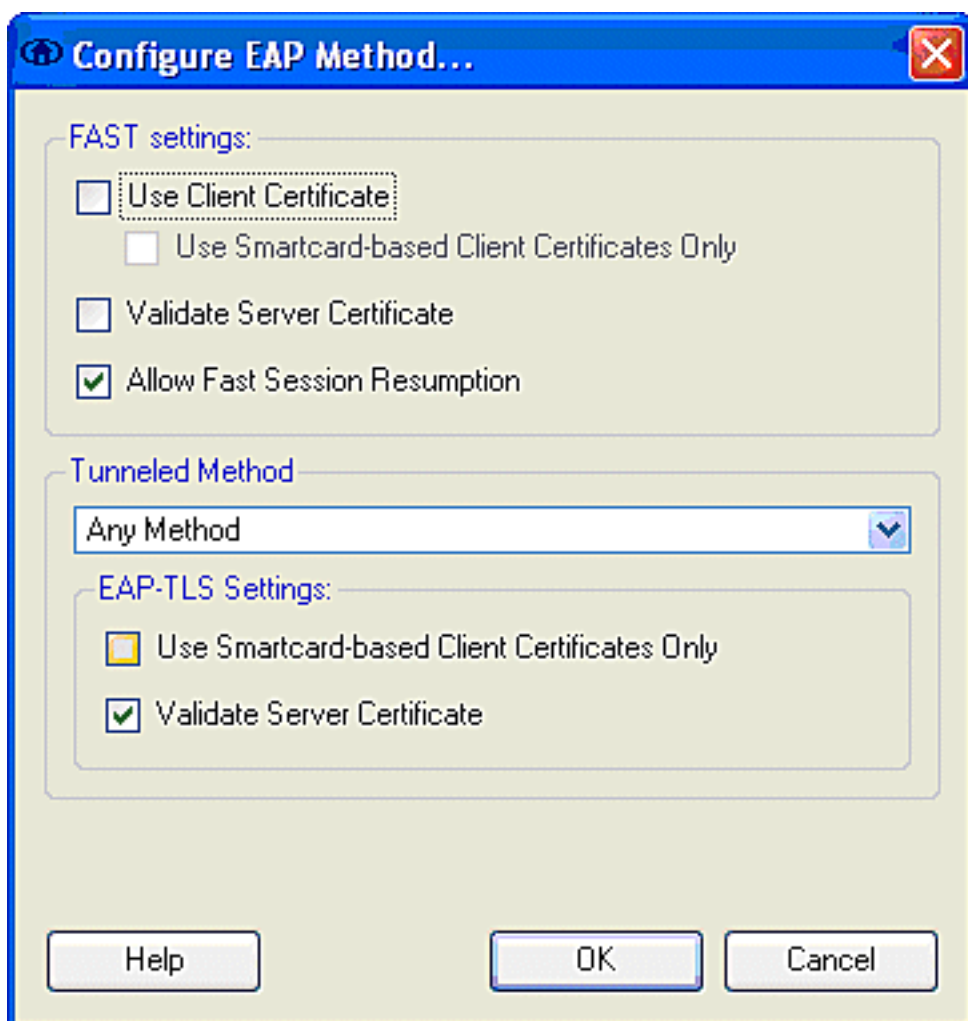
FAST 設定の下では Allow Fast Session Resumption を指定することが可能です。これにより、完全な EAP-FAST の再認証を必要とせずに、トンネル (TLS セッション) 情報に基づく EAP-FAST セッションの再開が可能になります。EAP-FAST サーバとクライアントが最初の EAP-FAST 認証交換内でネゴシエートされる TLS セッション情報を共通して認識している場合、セッションの再開が可能になります。

注： EAP-FASTサーバとクライアントの両方がEAP-FASTセッション再開用に設定されている必要があります。

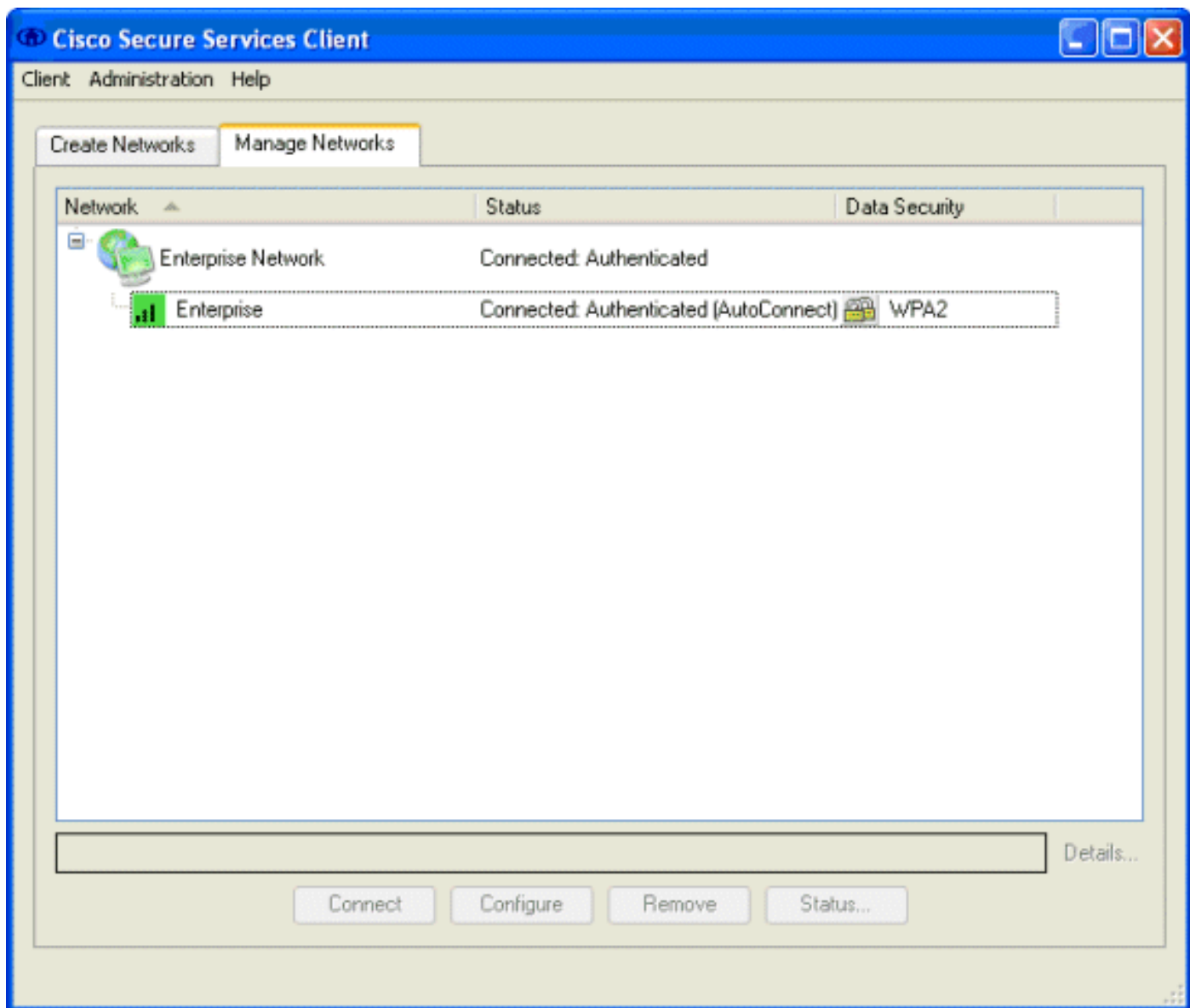
[Tunneled Method] > [EAP-TLS Settings]で、[Any Method] を指定して、PACの自動プロビジョニング用にEAP-MSCHAPv2を許可し、認証用にEAP-GTCを許可します。Active Directory などの Microsoft 形式のデータベースを使用していて、そのデータベースでネットワーク上の EAP-FAST v1 クライアントがサポートされていない場合、Tunneled Method としては MSCHAPv2 のみの使

用を指定することもできます。

注：このウィンドウのEAP-TLS設定では、デフォルトで[Validate Server Certificate]が有効になっています。この例では内部認証方式として EAP-TLS を使用していないため、このフィールドは適用できません。このフィールドが有効である場合、EAP-TLS 内でのクライアント証明書のサーバによる検証に加えて、クライアントがサーバ証明書を検証することもできます。



EAP-FAST の設定を保存するには OK をクリックします。クライアントはプロファイルの下で「automatically establish」用に設定されているため、自動的にネットワークとのアソシエーション/認証が開始されます。Manage Networks タブの、Network、Status、および Data Security フィールドはクライアントの接続状態を示しています。この例では、Profile Enterprise Networkが使用中で、Network Access Device(NAD)がSSID Enterpriseであることがわかります。これは、Connected:Authenticatedを示し、Autoconnectを使用します。Data Security フィールドは、採用されている 802.11 暗号化タイプを示しています (この例では WPA2)。



クライアントが認証を行った後、接続の詳細情報を照会するには、[Manage Networks] タブの [Profile] の下で [SSID] を選択し、[Status] をクリックします。[Connection Details] ウィンドウには、クライアント デバイス、接続の状態と統計、および認証方式に関する情報が表示されます。[WiFi Details] タブには、802.11 の接続状態に関する詳細情報が表示されますが、これには RSSI、802.11 チャンネル、および認証/暗号化が含まれます。

Connection Status



Connection Details

WiFi Details

Status: Connected: Authenticated

Duration: 00:00:47

Network Profile: Enterprise Network

Network Adapter: Cisco Aironet 802.11 a/b/g Wireless Adapter (Microsoft's Packet Scheduler)

Client MAC Address: 00-40-96-A0-36-2F

Access Device: Enterprise

Access Device MAC Address: 00-14-1B-5A-33-D0

Transmitted packets: 121

Received packets: 6

Speed: 54.0 Mbps

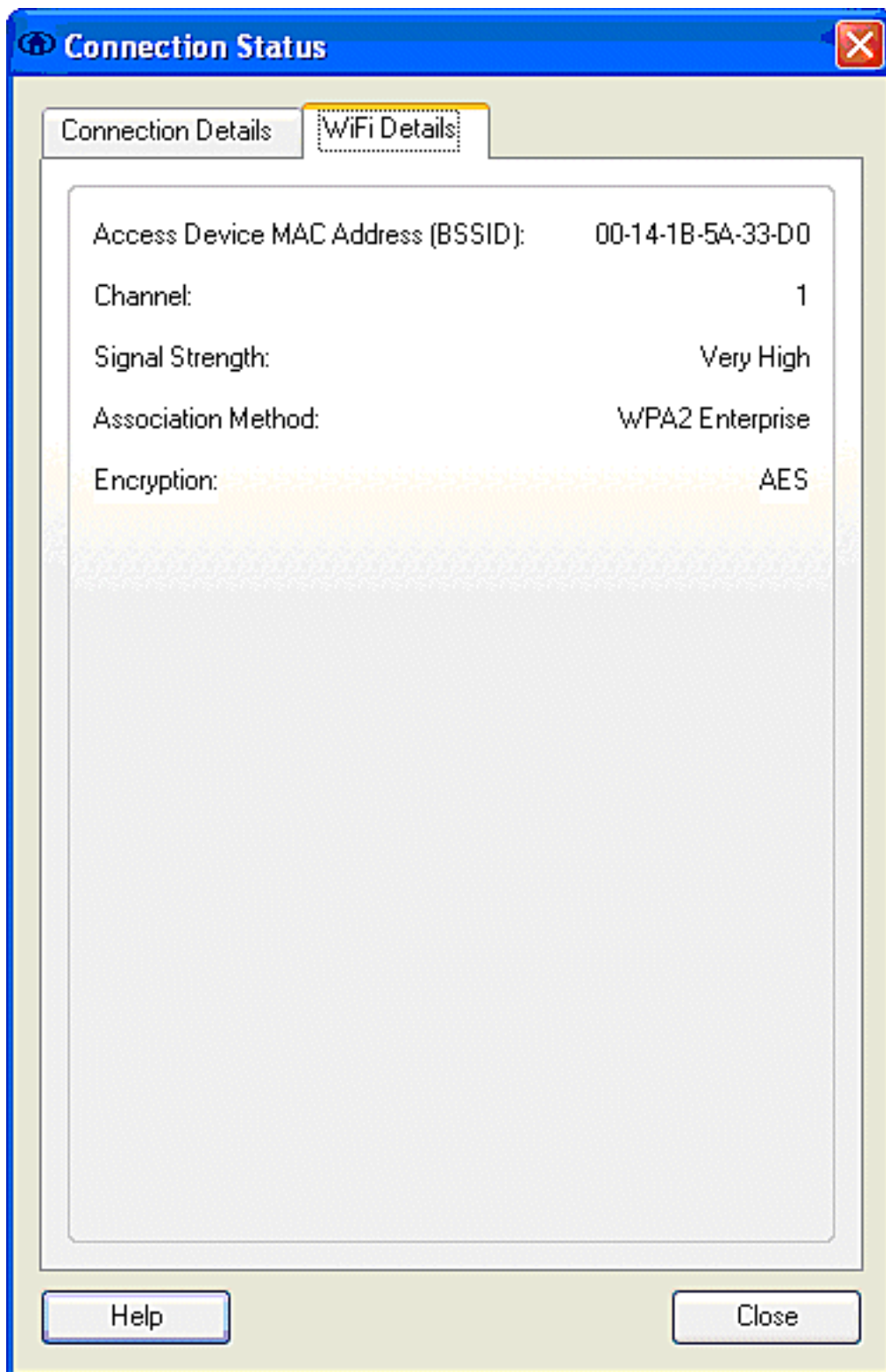
Authentication Method: FAST / GTC

Authentication Server: TME (not verified)

IP Address: 10.10.82.11

Help

Close



システム管理者であるユーザは、標準の CSSC ディストリビューションで利用可能な診断ユーティリティである Cisco Secure Services Client System Report を使用する資格があります。このユーティリティはスタートメニューまたは CSSC ディレクトリから使用できます。データを取得するには、[Collect Data] > [Copy to Clipboard] > [Locate Report File]をクリックします。これにより、Microsoft File Explorer ウィンドウでは、zip 圧縮されたレポートファイルがあるディレクトリが表示されます。zip 圧縮されたファイル内では、log (log_current) の下に最も有用なデータがあります。

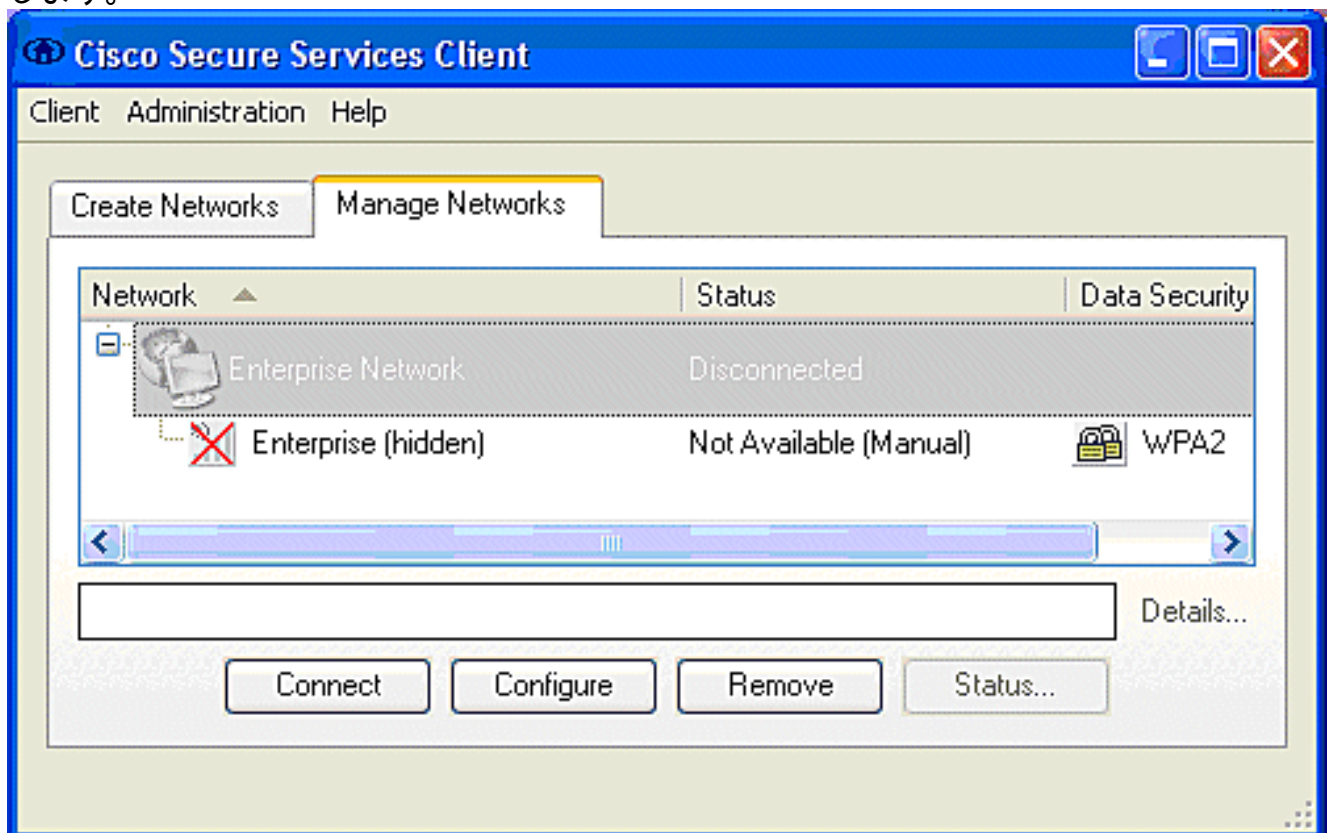
このユーティリティからは、CSSC、インターフェイス、およびドライバの詳細情報の現在の状態だけでなく、WLAN の情報 (検出された SSID、アソシエーション状態など) が分かります。このユーティリティは、特に CSSC と WLAN アダプタの間の接続の問題を診断するのに便利です。

動作の確認

Cisco Secure ACS サーバ、WLAN コントローラ、CSSC クライアントの設定、およびおそらく正しい設定とデータベース ポピュレーションの後、WLAN ネットワークは EAP-FAST 認証および安全なクライアント通信用に設定されます。セキュアなセッションのためには、進行状況/エラーをチェックするために監視可能な数多くのポイントがあります。

設定をテストするには、EAP-FAST 認証を使用してワイヤレス クライアントと WLAN コントローラを関連付けてみます。

1. CSSC が Auto-Connection に設定されている場合、クライアントはこの接続を自動的に試行します。CSSC が Auto-Connection とシングル サインオン動作に設定されていない場合、ユーザは Connect オプション ボタンにより WLAN 接続を開始する必要があります。これにより、EAP 認証が行われる 802.11 アソシエーション プロセスが開始されます。次に例を示します。



2. 続いてユーザは (EAP-FAST PAC Authority または ACS から) EAP-FAST 認証用のユーザ名、続いてパスワードを入力するよう求められます。次に例を示します。

Enter Your Credentials

Please enter your credentials for network Enterprise, access akita_pkc

Username:

Enter Your Credentials

Please enter your credentials for network Enterprise, access akita_pkc

Username:

Welcome to the Richfield TME PAC Auth

Dialog expires in 10 second(s)...

3. CSSC クライアントは続いて、クレデンシャルを検証するために、WLC を使用してユーザのクレデンシャルを RADIUS サーバ (Cisco Secure ACS) に渡します。ACS は、データと設定済みのデータベース (設定例では外部データベースは Windows Active Directory) の比較によりユーザのクレデンシャルを確認し、ユーザのクレデンシャルが有効である場合は常にワイヤレス クライアントにアクセス権を提供します。ACS サーバ上の Passed Authentications レポートには、クライアントが RADIUS/EAP 認証をパスしたことが示されます。次に例を示します。

The screenshot shows the Cisco Systems Reports and Activity interface. On the left is a navigation menu with categories like User, Config, Shared Profile, Network, System, Migration, Administration, External User, Security, and Reporting. The main area is titled 'Reports' and lists various report types such as TACACS+ Accounting, RADIUS Accounting, Failed Authentications, and Passed Authentications. The 'Passed Authentications' report is selected, displaying a table of authentication events.

Date	Time	Message- Type	User- Name	Group- Name	Call- ID	NAS- Port	NAS- IP- Address	Network Access Profile Name	Shared BAC	Downloadable ACL	System- Posture- Token	Application- Posture- Token	Reason	EA Typ
08/22/2006	16:25:37	Authn OK	test	Default Group	00-40-96-ab-36-2f	29	10.10.80.3	(Default)	43
08/22/2006	16:09:51	Authn OK	test	Default Group	00-40-96-ab-36-2f	29	10.10.80.3	(Default)	43
08/22/2006	16:06:55	Authn OK	test	Default Group	00-40-96-ab-36-2f	29	10.10.80.3	(Default)	43
08/22/2006	16:06:29	Authn OK	test	Default Group	00-40-96-ab-36-2f	29	10.10.80.3	(Default)	43
08/22/2006	16:06:29	Authn OK	test	Default Group	00-40-96-ab-36-2f	29	10.10.80.3	(Default)	43

4. RADIUS/EAP 認証に成功した時点で、ワイヤレスクライアント（この例では 00:40:96:ab:36:2f）は AP/WLAN コントローラで認証されます。

The screenshot shows the Cisco Wireless Controller interface. The 'Clients' tab is active, displaying a table of wireless clients. The table includes columns for Client MAC Addr, AP Name, WLAN, Type, Status, and Auth Port. The clients listed are:

Client MAC Addr	AP Name	WLAN	Type	Status	Auth Port
88:0f:b6:45:54:30	AP0004-0900-0004	Unknown	802.11b	Probing	No 29
88:0f:96:ab:36:2f	AP0004-0900-0004	Enterprise	802.11g	Associated	Yes 29
88:0f:96:ab:01:69	AP0004-0900-0004	Unknown	802.11b	Probing	No 29
88:0f:96:ab:06:16	AP0004-0900-0004	Enterprise	802.11g	Associated	No 29

付録

Cisco Secure ACS および Cisco WLAN コントローラで使用可能な診断およびステータス情報に加えて、EAP-FAST 認証の診断に使用可能な追加ポイントが存在します。認証の問題の大部分は、WLAN スニファを使用したり WLAN コントローラで EAP 交換をデバッグすることなく診断できますが、トラブルシューティングに役立つように、この参照資料が収録されています。

EAP-FAST Exchange のスニファ キャプチャ

次の 802.11 スニファ キャプチャは、認証交換を示しています。

Source	Flags	Channel	Signal	Data Rate	Size	Relative Time	Protocol	Summary
00:14:1B:5A:33:D0	*	11	68%	36.0	101	00.033877	802.11 Assoc Req	FC=...R...,SN=2867,FM= 0,Status...
00:14:1B:5A:33:D0	*	11	70%	24.0	101	00.036453	802.11 Assoc Req	FC=...R...,SN=2867,FM= 0,Status...
00:14:1B:5A:33:D0		11	71%	54.0	90	00.036494	802.1x	FC=.F...,SN=2868,FM= 0
Aironet:A0:36:2F		11	54%	1.0	82	00.123205	EAP Response	FC=T...,SN= 3,FM= 0
00:14:1B:5A:33:D0	#	11	71%	1.0	14	00.123517	802.11 Ack	FC=.....
00:14:1B:5A:33:D0		11	67%	54.0	65	00.165611	802.1x	FC=.F...,SN=2870,FM= 0
Aironet:A0:36:2F		11	55%	1.0	82	00.173920	EAP Response	FC=T...,SN= 4,FM= 0
00:14:1B:5A:33:D0	#	11	70%	1.0	14	00.174228	802.11 Ack	FC=.....
00:14:1B:5A:33:D0		11	68%	54.0	66	00.178863	802.1x	FC=.F...,SN=2871,FM= 0
Aironet:A0:36:2F		11	58%	1.0	282	00.200632	EAP Response	FC=T...,SN= 5,FM= 0
Aironet:A0:36:2F		11	58%	1.0	282	00.203340	EAP Response	FC=T...,SN= 5,FM= 0
00:14:1B:5A:33:D0	#	11	71%	1.0	14	00.203639	802.11 Ack	FC=.....
00:14:1B:5A:33:D0		11	70%	54.0	188	00.207634	802.1x	FC=.F...,SN=2872,FM= 0
Aironet:A0:36:2F		11	55%	1.0	105	00.216295	EAP Response	FC=T...,SN= 6,FM= 0
Aironet:A0:36:2F		11	57%	1.0	105	00.217444	EAP Response	FC=T...,SN= 6,FM= 0
00:14:1B:5A:33:D0	#	11	70%	1.0	14	00.217754	802.11 Ack	FC=.....
00:14:1B:5A:33:D0		11	67%	54.0	99	00.222799	802.1x	FC=.F...,SN=2874,FM= 0
Aironet:A0:36:2F		11	55%	1.0	152	00.254189	EAP Response	FC=T...,SN= 7,FM= 0
00:14:1B:5A:33:D0	#	11	68%	1.0	14	00.254499	802.11 Ack	FC=.....
00:14:1B:5A:33:D0		11	64%	54.0	147	00.288950	802.1x	FC=.F.R...,SN=2875,FM= 0
Aironet:A0:36:2F		11	55%	1.0	232	00.318087	EAP Response	FC=T...,SN= 8,FM= 0
00:14:1B:5A:33:D0	#	11	70%	1.0	14	00.318383	802.11 Ack	FC=.....
00:14:1B:5A:33:D0		11	68%	54.0	44	00.326833	802.1x	FC=.F...,SN=2877,FM= 0
00:14:1B:5A:33:D0		11	65%	54.0	44	00.326882	802.1x	FC=.F.R...,SN=2877,FM= 0
00:14:1B:5A:33:D0		11	67%	48.0	44	00.326922	802.1x	FC=.F.R...,SN=2877,FM= 0
00:14:1B:5A:33:D0		11	67%	54.0	157	00.326964	802.1x	FC=.F...,SN=2878,FM= 0
Aironet:A0:36:2F		11	57%	1.0	157	00.333742	EAPOL-Key	FC=T...,SN= 9,FM= 0
00:14:1B:5A:33:D0	#	11	70%	1.0	14	00.334019	802.11 Ack	FC=.....
00:14:1B:5A:33:D0		11	65%	54.0	207	00.340467	802.1x	FC=.F...,SN=2879,FM= 0
00:14:1B:5A:33:D0		11	67%	54.0	207	00.341130	802.1x	FC=.F.R...,SN=2879,FM= 0
Aironet:A0:36:2F		11	57%	1.0	135	00.342542	EAPOL-Key	FC=T...,SN= 10,FM= 0

このパケットは、最初の EAP-FAST EAP 応答を示しています。

注：CSSCクライアントで設定されているように、最初のEAP応答では外部EAP IDとして anonymousが使用されます。

Packet: 12

Frame Control Flags: 00000001 [11]

- 0... Non-strict order
- .0... WEP Not Enabled
- .0... No More Data
- ...0... Power Management - active mode
- ...0... This is not a Re-Transmission
- ...0... Last or Unfragmented Frame
- ...0... Not an Exit from the Distribution System
- ...1... To the Distribution System

Duration: 314 Microseconds [2-3]

BSSID: 00:14:1B:5A:33:D0 [4-9]

Source: 00:40:96:A0:36:2F Aironet:A0:36:2F [10-15]

Destination: 00:14:1B:5A:33:D0 [16-21]

Seq. Number: 3 [22-23 Hash 0x7770]

Frag. Number: 0 [22 Hash 0x07]

IEEE 802.2 Logical Link Control (LLC) Header

- Dest. SAP: 0xAA SNAP [24]
- Source SAP: 0xAA SNAP [25]
- Command: 0x03 Unnumbered Information [26]
- Vendor ID: 0x000000 [27-29]
- Protocol Type: 0x888E 802.1x Authentication [30-31]

IEEE 802.1x Authentication

- Protocol Version: 1 [32]
- Packet Type: 0 EAP - Packet [33]
- Body Length: 14 [34-35]

Extensible Authentication Protocol

- Code: 2 Response [36]
- Identifier: 1 [37]
- Length: 14 [38-39]
- Type: 1 Identity [40]
- Type-Data: anonymous [41-49]

WLAN コントローラでのデバッグ

認証交換の進行状況を監視するために、WLAN コントローラでは次の debug コマンドが使用できます。

- debug aaa events enable
- debug aaa detail enable

- debug dot1x events enable
- debug dot1x states enable

デバッグを使用して WLAN コントローラで監視された、CSSC クライアントと ACS の間の認証トランザクションの開始の例を次に示します。

```
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Processing RSN IE type 48,
length 20 for mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Received RSN IE with
0 PMKIDs from mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f dot1x -
moving mobile 00:40:96:a0:36:2f into Connecting state
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Sending EAP-
Request/Identity to mobile 00:40:96:a0:36:2f (EAP Id 1)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Received Identity Response
(count=1) from mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f EAP State update from
Connecting to Authenticating for mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f dot1x - moving mobile
00:40:96:a0:36:2f into Authenticating state
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Entering Backend Auth
Response state for mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AuthenticationRequest: 0x138dd764
Thu Aug 24 18:20:54 2006: Callback.....0x10372764
Thu Aug 24 18:20:54 2006: protocolType...0x00040001
Thu Aug 24 18:20:54 2006: proxyState.....00:40:96:A0:36:2F-11:00
Thu Aug 24 18:20:54 2006: Packet contains 15 AVPs (not shown)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Successful transmission of
Authentication Packet (id 84) to 10.1.1.12:1812, proxy state0
Thu Aug 24 18:20:54 2006: ****Enter processIncomingMessages: response code=11
Thu Aug 24 18:20:54 2006: ****Enter processRadiusResponse: response code=11
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Access-Challenge received from
RADIUS server 10.1.1.12 for mobile 00:40:96:a0:36:2f rec7
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AuthorizationResponse: 0x11c8a394
Thu Aug 24 18:20:54 2006: structureSize..147
Thu Aug 24 18:20:54 2006: resultCode.....255
Thu Aug 24 18:20:54 2006: protocolUsed...0x00000001
Thu Aug 24 18:20:54 2006: proxyState.....00:40:96:A0:36:2F-11:00
Thu Aug 24 18:20:54 2006: Packet contains 4 AVPs (not shown)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Processing Access-Challenge
for mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Entering Backend Auth Req state
(id=249) for mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f WARNING:
updated EAP-Identifer 1 ==> 249 for STA 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Sending EAP Request from
AAA to mobile 00:40:96:a0:36:2f (EAP Id 249)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Received EAP Response from
mobile 00:40:96:a0:36:2f (EAP Id 249, EAP Type 3)
```

次に、(WPA2 認証を使用した) コントローラ デバッグからの成功した EAP 交換完了を示します。

```
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Processing Access-
Accept for mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Applying new AAA
override for station 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Override values for station
```

00:40:96:a0:36:2f source: 4, valid bits: 0x0
qosLevel: -1, dscp: 0xffffffff, dot1pTag: 0xffffffff, sessionTimeout:
-1 dataAvgC: -1, rTAvgC: -1, dataBurstC: -1, r1'
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Unable to apply override
policy for station 00:40:96:a0:36:2f - VapAllowRadiusOverride E
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Creating a new PMK Cache Entry
for station 00:40:96:a0:36:2f (RSN 2)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Adding BSSID
00:14:1b:5a:33:d0 to PMKID cache for station 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: New PMKID: (16)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: [0000] a6 c0 02 95 66 e8 ed 9b 1c 65 9b
72 1f 3f 5f 5b
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Sending EAP-Success
to mobile 00:40:96:a0:36:2f (EAP Id 0)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: Including PMKID in M1 (16)
Thu Aug 24 18:20:54 2006:
[0000] a6 c0 02 95 66 e8 ed 9b 1c 65 9b 72 1f 3f 5f 5b
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Sending EAPOL-Key Message to
mobile 00:40:96:a0:36:2f state INITPMK (message 1), repl0
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Entering Backend
Auth Success state (id=0) for mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Received Auth Success
while in Authenticating state for mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f dot1x -
moving mobile 00:40:96:a0:36:2f into Authenticated state
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Received EAPOL-
Key from mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Invalid EAPOL version
(1) in EAPOL-key message from mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Received EAPOL-key
in PKT_START state (message 2) from mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Stopping retransmission
timer for mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Sending EAPOL-Key Message
to mobile 00:40:96:a0:36:2f state PTKINITNEGOTIATING (messal
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Received
EAPOL-Key from mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Invalid EAPOL version (1)
in EAPOL-key message from mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f Received EAPOL-key in
PTKINITNEGOTIATING state (message 4) from mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AccountingMessage
Accounting Interim: 0x138dd764
Thu Aug 24 18:20:54 2006: Packet contains 20 AVPs:
Thu Aug 24 18:20:54 2006:
AVP[01] User-Name.....enterprise (10 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[02]
Nas-Port.....0x0000001d (29) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[03]
Nas-Ip-Address.....0x0a0a5003 (168448003) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[04]
Class.....CACs:0/28b5/a0a5003/29 (22 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[05]
NAS-Identifier.....ws-3750 (7 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[06]
Airespace / WLAN-Identifier.....0x00000001 (1) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[07]
Acct-Session-Id.....44ede3b0/00:40:
96:a0:36:2f/14 (29 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[08]
Acct-Authentic.....0x00000001 (1) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[09]
Tunnel-Type.....0x0000000d (13) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[10]

```
Tunnel-Medium-Type.....0x00000006 (6) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[11]
Tunnel-Group-Id.....0x3832 (14386) (2 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[12]
Acct-Status-Type.....0x00000003 (3) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[13]
Acct-Input-Octets.....0x000b99a6 (760230) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[14]
Acct-Output-Octets.....0x00043a27 (277031) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[15]
Acct-Input-Packets.....0x0000444b (17483) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[16]
Acct-Output-Packets.....0x0000099b (2459) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[17]
Acct-Session-Time.....0x00000a57 (2647) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[18]
Acct-Delay-Time.....0x00000000 (0) (4 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[19]
Calling-Station-Id.....10.10.82.11 (11 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: AVP[20]
Called-Station-Id.....10.10.80.3 (10 bytes)
Thu Aug 24 18:20:54 2006: 00:40:96:a0:36:2f
Stopping retransmission timer for mobile 00:40:96:a0:36:2f
Thu Aug 24 18:20:57 2006: User admin authenticated
```

関連情報

- [Cisco Secure ACS for Windows Server のインストール ガイド](#)
- [Cisco Secure ACS 4.1 の設定ガイド](#)
- [WLC と Cisco Secure ACS を使用した SSID に基づく WLAN アクセス制限の設定例](#)
- [ACS 4.0 と Windows 2003 を使用した Unified Wireless Network 環境での EAP-TLS](#)
- [RADIUS サーバおよびワイヤレス LAN コントローラを使用したダイナミック VLAN 割り当ての設定例](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)